

学校体育研究同志会 第35回大阪支部大会 豊能三島大会

大会総括報告書

豊能三島大会実行委員会

2020年11月21・22日

於：豊中市立小曾根小学校

目次

はじめに	実行委員会
支部大会総括	安武
現地・渉外	朝輝
研究	楠橋
参加者組織	竹内
会計・物品	下村
大会に参加して	田中
	石西
	奥
	大瀬良

コロナは収まるどころか、何か得体が判れない不気味な足音とともに、日本中を席卷しています。そして心穏やかではありません。平凡とした日々はいつ戻ってくるのでしょうか？一日も早くそんな生活が訪れることを切に望んでおります。

さて、このコロナ禍の中での今大会開催までには、紆余曲折と迷いもありました。しかし、十分な対策と論議を重ね、直前中止もあり得るとの判断の上強行した次第です。そのことで、多くの方々に迷いとご心配をおかけしたのではないかと感じております。特に今回参加をお控えになられた皆様の判断を尊重いたしますし、もっと多くの方の不参加も想定しておりました。しかし、私たち実行委員会のメンバーは、ぎりぎりまで論議の余地を残しながら踏み切ることにしたのです。結果的に10名の方々が参加できなかったことを、大変心苦しく、申し訳ないと思いましたが残念でした。

そんな中でも、それでも、大会は2日にわたり行われ105名の方々の参加で元気を頂きました。本当に有り難かったです。今回の取り組みの総括を残すことで、今後の支部大会に役立てる部分があればと思っております。

実行委員会委員会一同

取り組み経過

○2019年9月14日のブロック総会で「支部大会構想」について話す

役割分担を決め、

会場決定、宿泊所決定、後援の申請、当日の日程案、分科会案、基礎講座、記念講演

実行委員会の日程等について意見交流

○10月4日ブロック委員会

日程・会場・宿泊（仮予約）決定

大会日程・分科会候補・参加費等一次案

:この時点で「授業づくり」の一コマを「運動会」でやりたい方針（吉澤）

大会コンセプト 「みんながわかる支部大会」

- ・一日で完結する分科会（実技も実践報告も一日で聞ける）
- ・報告者も他の分科会にも参加できる
- ・そのため、分科会を一日（5時間）ごとに違うものを用意する
- ・基礎講座はなしにするが、「授業づくり入門」分科会を用意する（①2コマ②2コマ）

・基調報告は、同志会の体育の考え方を、実践例を引きながら分かりやすく簡潔にする

・記念講演は、一般参加者も興味深く聞け、体育実践に活かそうと思える内容で
→神谷さんの「運動会」の話：第一候補

○11月16日ブロック例会（ラグハンドボール実技）例会前にブロック委員会
支部常任で出された「分科会の一日完結」についての意見交流

- ・じっくり伝えるという面が薄くなる恐れあり⇒支部大会の位置づけの模索の一つとしてやってみる価値あり
- ・「基礎講座」がなくなるのは残念⇒「授業づくり入門」がその代わり
- ・「基礎講座」に現地の思いを入れられていたが…⇒「授業づくり入門」に記念講演と絡めた「運動会」を
- ・各分科会の「入門提案」をどうするのか⇒研究局から原案を
- ・分科会の構成は？⇒ブロックと研究局で相談、一日目二日目の配分も

授業づくりの候補（日程も踏まえて）球技が分科会でないことも配慮

一日目 マット・運動会 二日目 球技（手）・球技（足）

○12月9日ブロック委員会

- ・大会日程の微調整
- ・分科会の配分（1日目・2日目、実技割り当て）の案
- ・大会テーマについて
- ・実行委員会ニュースについて（大会速報とも関連して）
タイトル・いつから発行・担当・内容等々

- 予算案作成とかかわって：参加者予想と上納目標（民舞教室分も含めて10万円）
- 「要項作成」及び「後援申請」とかかわって・・・2月くらいまでを目途に
（役割分担）会場の確定及び後援申請…朝輝（竹内）
記念講演者（神谷さん）の確定…竹内
分科会責任者と報告者の確定、および実技の有無等…安武
基調報告と提案集づくりに向けて…楠橋
予算案づくりに向けて…下村（朝輝）
実行委員会ニュース等情宣活動…田中（下村）

○2020年1月26日ブロック委員会

- 会場（小曽根小）確定（1月24日：朝輝さんと実行委員長で挨拶）
- 記念講演者（神谷）確定
- ニュースタイトル「おマチカネ」に決定 1号を2月支部ニュースに
- 保育と子どもスポーツクラブについて話し始める
- 予算案作成に向けて（上納費決定、弁当なし、熱中症対策
- 分科会の流れ（入門はあり。ただし30分程度で簡潔に）

○3月1日ブロック委員会

- 申請用の要項作成して後援申請を出す
- おマチカネ2号を4月支部ニュースに
- 分科会構成と担当者がほぼ決定
- 提案集作成の段取りとスポンサー、保険関係

※その後、コロナ感染が広がりブロック委員会も開けず、支部大会も不透明に
ただし、その間に府教委をはじめ各市町の後援が通る

○6月19日ブロック委員会（ズーム）

- 支部大会の日程変更（11月21日22日）決定
- この時点で神谷さんの都合がつかず、記念講演なしの方向で日程調整
- 講演をもらった所に日程変更を伝える（引き続き後援をもらう方向で）

○6月27日ブロック例会&ブロック委員会

- コロナ禍開催に向けての変更
宿泊なし、保育・こどもスポーツなし、飲料水販売なし
参加者減少による予算案の見直し
- 神谷さんが21日参加が可能になったので、変更しかけた日程は元に戻す
- 水泳分科会の実技が難しくなったので対応を
- 東京の吉澤さんは参加の方向（情勢不安定）
- 淡路の岨さんが「子どもと創る運動会」を実践中⇒支部大会で方向可能か？

- 支部研究部の「運動会アンケート」による例会を受けた報告も入れ「運動会分科会が可能か？
- 変更後の要項を8月中に作る

○7月24日ブロック委員会（ズーム）

- 中止の時の対応
- コロナ対策：可能な範囲で「コロナ対策」を考え、それを「要項」にも載せていく

○8月21日ブロック委員会（ズーム）

- 中止の判断の基準（常任とも相談）と決定リミットを決める
- 中止時の申込者への対応決定
- 変更後の要項の作成と印刷枚数、配布計画（分担）
- 宣伝と参加目標の決定（予算は62名で立て、80名参加を目指す）
- 大会当日の実行委員の大まかな役割分担と大会までのタイムスケジュール
- 物品購入は、11月まで待つて行う

○9月25日ブロック総会（ズーム）

- おマチカネ3号の発行
- ブロック年間計画と支部大会
- 中止時の対応の確認
- 当日の実行委員の役割分担
- コロナ対策の具体化（いつどこで？検温、準備物）
- 各分科会の準備物の集約と会場との確認

○10月16日ブロック委員会（ズーム）

- 進捗状況の確認
 - 提案集の印刷をネットで頼む
 - 必要物品を15日までに会場校へ届ける
- 11月15日の会場校準備の内容確認とそれまでにやっておくこと
- 大会当日の役割分担

○11月15日：会場校準備

- 作業前の打ち合わせ
 - 実行委員の宿泊、交流会について（しない方向）
 - コロナ対策の参加者へのアピール、大会後の総括の仕方について
- 作業
 - 会場（各教室・体育館・運動場・各倉庫・印刷室等）の確認のあと
 - ㊦分科会の準備物の確認と用意できるものは用意しておく
 - ㊧歓迎号や周辺地図、分科会案内図等の作成
 - ㊨開会式用横断幕
 - ㊩袋詰め（提案集・歓迎号・周辺地図・入会のお勧め・感想文用紙・年間活動ビラ

④消毒液・石けん液等の設置配置図及び受付でのコロナ対策のお願いポスター作成

⑤会場表示・会場案内表示等

⑥「おマチカネ」作成の手順と体制の確認（感想文・写真・配り等）

⑦開会式・閉会式のプログラム

○11月21日22日大会当日

○総括に向けて

11月中に各分担による総括文（案）の作成

それを実行委員長（竹内）に送り、総括文作成

ライン等で確認の上、12月20日の常任委員会へ提出

現地・渉外

●今回、コロナ禍でも“結構余裕で学校を借りられ”ました。それはたまたま今年度か校長も教頭も“ゆるい方”で「ラッキーな年だったから」という一言です。開催のお願いを休校中の4月に管理職へ相談すると「え！？いいんじゃない（管理職が断るという発想がなさそう）」、9月に再度延期のお願いをすると「大変やねえ」とあっさりOKを頂きました。しかし、同じ職場でも2年前の教頭だとしても細かく、そうすると同じ校長でもピリピリするし、こんなコロナ禍では絶対に無理だったと思います。

また、当日は私以外の本校の職員参加はゼロでした。ただ1週間前から教室をきれいにしてくれるなど、結構たくさんの先生快く協力してくれたので紹介します。

- ・担任5人…教室の貸し出し、掃除、
- ・音楽の先生1人…日頃はなかなか貸してくれないがOK、音響調整してくれた
- ・養護の先生2人…アルコール・ハンドソープなどの貸し出し、OK
- ・用務員さん2人…後日、ゴミの処理（ゴミ袋の数を減らすため満杯にする作業）
- ・警備員さん1人…80才。土曜の学童出勤だったが参加者の誘導もしてくれた
- ・準備手伝い1人…2015年の全国大会でも当日学校にいてくれた先生が今回も
- ・管理職2人…“ゆるく”OKを出してくれた

なんだかんだで30人いる職員中、半数の14人が協力してくれました。お礼と、今後も学校を会場として使いたい狙いもあり、大会翌日にはお一人お一人に“ちょっといいお菓子”とご挨拶にいきました。みなさん一言あると「全然いいよ～また言うてね」と言ってくれました。

●前日準備は必要だと思いました。今回、当日の朝がコロナ&ZOOM 対応で終われたことありますが、前日に一人で4時間準備しましたが、当日バタバタで

した。

〈涉外〉～教育委員会の後援～

今回、大阪府＋豊能地区（豊中市・池田市・箕面市・豊能町・能勢町）すべてに「後援名義」申請を行いました。“結構どこでも OK をもらえる”と言う印象でした。ただコロナ禍で教育委員会もバタバタしているのか、なかなか連絡が取れないこともありましたが、厳しい審査は感じられませんでした。延期申請時も電話で問い合わせると「再度書類を送ってもらえると助かりますー」という所も多く、コロナ対策も大阪府から簡単な指定用紙に記入を求められたのみでした。ちなみに箕面市は一度電話はつながりましたが、メールや郵送で申請を3回出すも返事がなく、後援には入っていません。

研究

まず、このコロナ禍で100名をこす参加者があったことは、ある意味同志会大阪支部の研究成果と言えるのではないかと。さらに今年度は、研修スタイルを1分科会1日制にしたことで、参加しやすくなったことが大きいと思われる。研修を積みたいのであるが、2日の通し参加となるとどうしても二の足を踏んでしまう。そこで、1日完結型にしたことが、今の教師たちにフィットしたと思われる。これについては異論もあるであろうが、「支部大会の一番大きな目標は何か？」研究を深めることなのか、研究を広げることなのか、もちろんどちらも必要ではあるが、重きを置く方向については、しっかりと持っておくことが常用であると思われる。また2日参加のメンバーで報告を行った者も、ちがう分科会に1日は参加できるというのも大きなメリットであった。ある意味どの分科会も「風通し」がよくなったのではないかと。

また、この大会の象徴的な分科会であったのが、「運動会分科会」であった。20名を超える分科会が成立したのも、各所属校でコロナ禍の中改めて運動会に少なからずともスポットがあたったことと、神谷氏の新年度記念講演や吉澤氏の新春講演などで、支部で運動会について考える機運が高まっていたこととが合致した分科会であった。研究部も、アンケートなどをとり研究部員全員の意識が「運動会」にあったことも大きな要素となった。ただ、このことについては、この分科会で終わり出なく、課題を引き継いで、研究部を中心に今後も討議を行い、何から始めて、どのように運動会をかえていくのか」について、道筋をつくっておく必要があると感じた。

参加者組織

今大会は、参加者目標を80名として取り組み始めた。
参加目標の内訳は（学生15名：神谷・竹内・前田・上野山・田中）

豊能三島 20 南河内 7 泉州 8 市内 5 奈良 5
北河内 10 中河内 10 となっていた。

申し込み方法は、従来の手書き等での申し込みではなく、google フォームで行った。大会要項に掲載にはQRコード、メールや掲示板にはURL を掲載し、とにかく申し込みの面倒さを軽減した。申しこんで頂いた方々から聞こえてきたのは、申し込み完了したのか？の実感がなかったようだ。google フォームの機能に、受付後の自動返信の機能があるようなので次回からはそれを使うことをお勧めしたい。この方式は何よりも、受付業務の簡略化。そして、データーの活用にも便利なので毎回導入することをお勧めしたい。

コロナの感染拡大の猛威に参加自粛せざるを得ない方が12名になったのは残念だったが、目標を大きく上回る105名の実質参加者の数は、私たち教員の研究への情熱が、コロナの恐怖よりまさったと言えるのではないだろうか。

当日のデーターを基に今大会の特徴を分析する。
これだけの数の未会員の方が参加。私たちへの大きな期待と、躍進する可能性を感じる。

次に、参加者の所属別ではこうだった。学生参加目標15に対して9+採用から3年以内の卒業生が5人だったのでほぼクリア

会員	61
未会員	44

ー？ と見るか？その他にも、目標達成をどう見ていくか？本来は、そのブロックの

メンバーが参加目標に対して、どのように動くか？働きかけた、その人が参加してくれたとしたら、+1名になるが。その人の勤務先が他ブロックだとしたら、その働きかけた人の目標貢献をどう見るのだろう？とにかく特筆すべきは枚方市の公立の保育士さんたちが、17名も申し込んで頂いたのは凄い！

小学校	57
支援学校	6
保育所・幼稚園等	16
学生	9
その他（大学等）	13

全日程参加	50
1日目だけ	34
2日目だけ	18
記念講演のみ	1

	参加	会員	未会員	目標	達成
市内	3	4	5	○	
南河内	13	2	7	○	
中河内	8	1	10		
北河内	6	17	10	○	
豊能三島	12	2	20		
泉州	13	4	8	○	
奈良	5	5	5	○	

会計・物品

大会の日程が、11月の土曜・日曜開催となり、例年の夏休み開催よりは参加者が少なくなるのではないかと、というブロックの見立てがあった。また、支部大会上納金に加え、例年支部に収めている民舞教室分も上乘せして支部に上納することを目標にした。そのため、できるだけ支出を抑える工夫をブロックで相談しながら行った。その大きな工夫は、2つある。1つ目は、提案集をオンデマンド

印刷にしたことだ。オンデマンド印刷にすることで、例年の半額ほどで経費で済んだ。2つ目は物品の工夫である。今年の大会はコロナ対応があった。非接触の体温計や消毒液、マスク、手洗い用の石鹸など必要物品は多岐に及んだ。朝輝さんの学校に協力していただいたり、竹内さんをはじめとするブロック員、支部の皆さんにも協力をいただき、新規に購入することをできるだけ控えた。たくさんの方の協力で、大きく支出を抑えることができた。また、参加者も予想を大きく上回り、収入も大きくなった。支部の会計も厳しい中なので、特別会計として支部に還元できればと、ブロックで相談を進めている。

大会に参加して

各分科会で、実践提案の前に実技があったり、分科会が一日で完結するようになったりしたことが、参加しやすい分かりやすい会に繋がったと思う。

今まで自分自身、参加者や実践・実技提案者としてしか支部大会に参加することがなかったが、実行委員として会に関わることで、この会が多くの人に支えられてきたことに気づくことができた。

私自身、実行委員をしながらも、会に参加し、学びを深めることができたと思う。
田中宏樹（標語教育大学大学院生）

今年の支部大会では、実行委員としては事前の準備に全く参加できず、当日も十分に運営に携われませんでした。勤務校で自分が担当している通級指導教室での体を動かす活動に活かせることを勉強したいという思いで参加しました。

1日目の障害児体育分科会では、どうしたら障害のある子どもにも体を動かす面白さを伝えられるか、具体的な手立てを学ぶことができました。何よりも体を動かして笑顔になるっていいですね。2日目の器械運動は、跳び箱の実践を分科会の参加者みんなで実技体験しました。1人で跳び箱を跳ぶときには不安だった気持ちだが、仲間と一緒になら楽しい気持ちに変わる、心の変化を体感しました。技能や技術も大事だけれど、運動を通して仲間とつながることはもっと大切なことなのではないかと感じました。

子どもがどうやって社会を生きていくのか。決してバラバラではなく、仲間と協力して生きていってほしい。そのために体育や学校でできることはきっとあるはず。2日目の帰り道、そんなことを考えていました。

石西 友也（摂津・鳥飼西小学校）

学校体育研究同志会の大阪支部大会に参加をするのは、これで2回目となる。学校現場に入ってから初めだ。新型コロナウイルスの影響で、集合型の学習会などが相次いで中止になる中、100名を超える参加者を迎えることができた。そしてまた自分が運営側になり、支部大会を支える形で、この大会にかかわれた

こと、とても光栄に思う。自分が実行委員としてできたことは微々たるものだったと思うが、普段参加している「同志会」に実行委員として携わることで学ぶことも多かった。近年行政の教育への介入や、忙しい現場で考える時間さえ奪われている現状が見受けられる。自分たちで学習の場を創り、運営していくからこそ、批判的に物事を捉え、子どもを中心に教育の在り方を再確認できると思う。今回困難な状況にもかかわらず、予想以上の数の参加者を迎え入れることができたのは、「学びたい」という強い思いの表れではないだろうか。そうした思いを胸に、今回学んだことを今後の取り組みに生かしていきたい。

奥 正行（大阪府立堺支援学校大手前分校）

1.支部大会を迎えるまで

毎年夏になれば、子どもたちが体育をしている様子が入った要項が目に入っていました。「2日に渡って体育の学習をやるなんてすごいな」と参加したい気持ちは持ちながらも、なかなか足が向きませんでした。3年前に同志会に入会。しかしながら、夏の支部大会は、教職員組合の機関会議と常に重なるため、入会後も参加できませんでした。

現場に戻って今年こそ参加しようと思ったら、初参加が、初事務局。これまでも様々な集会や学習会を企画・運営してきた経験はあっても、全く勝手は違い、常に飛び交う「これまで」「前回」の議論になかなかついて行けなかったのは事実です。とにかく議論を聞いて、当日滞りなく運営に参画しようと毎回の会議に参加していました。

2.実りある支部大会

事務局ということもあり、どこかの分科会にどっぷり浸ることはできませんでした。しかし、写真を撮るために全ての分科会に顔を出すことができたのは非常に大きなことでした。

その中で、①どの分科会も暖かな雰囲気運営され、その中心に青年教職員が多くいること、②子どもたちのことを思って授業をしている人が多くいること、③集まって対面で学習をすることの大切さを感じました。

コロナ禍の中で、運営も含め、参加者の方々への負担や不安が多くあったと思います。その中でも、支部大会が無事に開催できたこと、そして、集まって学習し、明日からのエネルギーを充電できたことから、今回の支部大会は、このような状況だからこそより実り多きものであったのではないかと思います。

大瀬良 篤（高槻市立南大冠小学校）